



歌浦っ子だより (学校だより) №8

「やさしい心 夢かがやく 歌小の子どもの育成」

令和5年6月2日 文責:校長 泉 清一

いのちを見つめる日「校長講話」

6月は「命を見つめる強調月間」です。命の大切さや友だち・家族の大切さ、思いやる心などを学びながら、心を育てていく1か月となります。特に6月1日は「いのちを見つめる日」と設定し、1時間目に子どもたちと一緒に「命」について考えました。



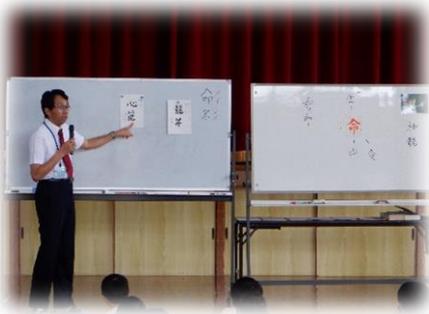
初めに、「命」のつく漢字を聞きました。

「命令」、「寿命」、「命中」などが出てきました。

次に、その熟語の中から「命名」について話をしました。私の娘の「命名」を紹介しました。そして、6月1日が誕生日の山村 龍昇君の「龍昇」について、漢字辞典や国語辞典に載っている意味を説明しました。すると、近藤 心麗さんが、私の名前は、「『心が綺麗な女の子になるように』』という願いが込められている。」とみんなに紹介してくれました。また、石川 健君は、「『健康な子に育ててほしい』という願いが込められている。」とみんなに紹介してくれました。

みなさんの名前には、お父さんやお母さんからの願いが込められている。だから「命名」ということを話しました。

最後に、「今日は、家に帰ったら、自分の名前の由来について、お父さんやお母さんに聞いてみてください。」と子どもたちにお願いをしました。「自分の名前から『命』について考える日になれば良いな?」と思っています。ぜひ家庭でも、子どもの名前の由来や子どもたちが産まれてきた時の様子を話していただければ幸いです。



※講話を終えての子どもたちの感想です。(一部抜粋)

- 自分の名前の由来を知って、これから、自分の名前を大切に生きていきたいです。
- 一人一人の名前には意味があって、家族の気持ちがこめられているといくことが分かりました。
- 私は、話を聞いて、名前を大切にしようと改めて思いました。一人一人の名前に親の願いがこもっていると知り、心が温くなりました。名前を大切にすることは、命を大切にすることにつながると思います。
- 人の命が生まれてはじめての名前「命名」は、その人のしょう来を思いうかべ、お父さん、お母さんが一生けん命考えた名前。名前をばかにしたり、変な風に思ったりすることは良くないと、校長先生の話聞いて思いました。